

続 学校点描

中学校の玄関前の井戸水が出なくなりました。毎朝早くから用務員さんが除雪作業を必死に行ってくれます。

《M中学校》

NO.18

R7. 1. 28

担当：校長

1月13日から蔵王坊平を会場に開催された県中学スキー大会クロスカントリー競技で、女子3kmフリーではO・Sさんが第4位、O・Nさんが第6位に、女子3kmクラシカルでO・Sさんが第3位、O・Nさんが第7位に入賞しました。男子5kmフリーでは、A・Kさんが第5位で入賞し、S・Kさんが第12位に、男子5kmクラシカルでA・Kさんが第7位で入賞し、S・Kさんが第12位となりました。O・Sさん、O・Nさん、A・Kさんは、フリーとクラシカルの東北、全国大会出場権を獲得しました。

14日から地元赤倉スキー場を会場に県中学スキー大会アルペン競技が開催され、女子大回転でA・Mさんが第4位、翌日の女子回転では第5位で入賞し、男子大回転でK・Gさんが第18位、男子回転で第16位となりました。A・Mさんは回転、大回転で東北、全国大会の出場権を獲得しました。

1月23日に第42回地区英語暗唱大会が開催され、H・Rさん、T・Sさん、O・Kさん、I・Tさんが挑戦しました。その結果、H・Rさん、T・Sさんが優良賞に輝きました。

サブスクの花と「ちくしょう」

先日、「ポストにお花をお届けしました」というメールが届きました。昨年から利用している花のサブスクは、規格外とされ流通しなかった花を届けるサー



ビスです。どんな花が届くかは楽しみです。飾るだけで優しい気持ちになります。

日常の中で「心」について考えることは重要です。たとえば、「どうして失敗を繰り返し思い出すのか」「音楽や花は気分はどう影響を与えるのか」などの問いかけが、心理学への興味を引き出します。心理学は教師にとっても必要な視点です。1月や2月は気温と日照時間が心を与える影響が大きい月です。学校で生きづらさを感じやすいそんな月です。

以前、2月の受験前に泣いていた生徒がいました。彼は「解けない問題が多すぎて自分はダメだ」と思い込んでいました。そこで私は「この問題が解けたら、ここまで解ける自分の可能性を褒めてあげなよ」と声をかけました。その後、彼は小さな成功を積み重ね、やがて「できた！」と笑顔で話す姿を見せしてくれました。心の持ち方や視点の変化が、受験前の緊張と気温や日照時間で暗

くなりやすい彼の気持ちを少し前向きにしてくれたようです。

また、いつも「ちくしょう」と繰り返しつつぶやく生徒がいました。「ちくしょう、ちくしょう」とつぶやけばつぶやくほど、さまざまなトラブルに彼は巻き込まれていきました。不思議なことに「ちくしょう」の言葉のあとに、また「ちくしょう」という言葉が出るような行動をとってしまうのです。

わたしは、最近、『やる気のからくり』に関する哲学の本を読みました。するところの本から、その生徒の口癖である“ちくしょうの連鎖”について答えを見つけた思いがしたのです。

「人は自分が意識するものばかり選び取り、現実を作り出している。同じ環境にいても、凹む意識があれば凹むことを探してしまう心のモードがある。」

この言葉を通じて、彼が「ちくしょう」と言い続けていたのは、無意識にその感情を引き寄せていたのではと感じました。

花の飾り方を少し変えるだけで見え方が鮮やかになるように、子どもたちにも、別の視点で自分を見ることで、気持ちが輝けることを伝えたいものです。

雪が降った朝に、ふと「ちくしょう、ちくしょう」と無意識につぶやいていたその生徒を思い出します。そういえば、学校の除雪ボランティアで必死に汗をかいていた姿が浮かんできました。そして同時に、教師としての未熟さを痛感するのです。



きっと、違う視点で自分を見るように伝えたなら、“ちくしょう”が“俺だってその気になれば”に変えさせることができたはずでした。

山崎拓己（2008）「やる気のスイッチ！ SWITCH OF SPRIT」Sanctuary books

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp